

# 乳がん

## 【集学的治療の実施状況】

### 外科・消化器外科：

外科、麻酔科、病理診断科、放射線科、形成外科、整形外科、脳神経外科、リハビリテーション科、化学療法室、緩和ケアチーム、NST チームが協力して、集学的治療を行います。

診断から治療を包括的に行っています。触視診、各種画像検査、細胞診、針生検、マンモトーム生検等を行います。確定診断、広がり診断を行い、治療方針を決定します。積極的にセンチネルリンパ節生検を行っています。確定診断に基づいて手術術式を決定します。乳房温存手術、乳房切除術を施行します。形成外科と連携して、2 期的に乳房再建術も行っています。乳房切除後はリハビリテーション科と連携して術後の身体機能の回復をめざし、早期から理学療法を行います。化学療法、ホルモン療法を行います。

### 放射線科：

画像診断と放射線治療を行います。

### 栄養サポートチーム（NST）：

医師、栄養士、看護師、薬剤師等が一丸となって栄養面をサポートしています。具体的にはがんによって食事が摂れなくなった患者さんに適切な栄養について検討しています。週一回の回診とカンファレンスを行っています。

### 緩和ケアチーム：

緩和ケアチーム、麻酔科、心療内科、各診療科、NST チームが協力して集学的治療を行っています。

緩和ケアチーム(医師、認定看護師、認定薬剤師等)が中心になって、病状、患者の思いを把握して、多職種で連携して苦痛を緩和します。

## 《準じているガイドライン名》

マンモグラフィガイドライン 第3版 増補版（日本放射線技術学会）

乳房超音波診断ガイドライン 改訂第3版（日本乳腺甲状腺超音波医学会）

乳癌診療ガイドライン 2013年版（日本乳癌学会）

乳房温存療法ガイドライン（標準的な乳房温存療法の実施要項の研究班）

NCCN ガイドライン 2014年

がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2014年版（日本緩和医療学会）

苦痛緩和のための鎮静に関するガイドライン 2010年版（日本緩和医療学会）

終末期癌患者に対する輸液療法のガイドライン 2013年版（日本緩和医療学会）

がん患者の消化器症状の緩和に関するガイドライン 2011年版（日本緩和医療学会）

がん患者の呼吸症状の緩和に関するガイドライン 2011年版（日本緩和医療学会）

がん性痛に対するインターベンショナル治療ガイドライン（日本ペインクリニック学会）

神経障害性疼痛薬物療法ガイドライン（日本ペインクリニック学会）

在宅緩和ケアガイドブック 2008年版（日本緩和医療学会）